

開催日時：2003年4月17日（木） 13：30～16：35

場 所：京都リサーチパーク 地下1階 バズホール

参加者数：委員22名、他部会委員1名、河川管理者16名、一般傍聴者102名

1 決定事項：特になし

2 審議の概要

委員会、他部会の状況報告

資料1「委員会および各部会の状況報告（提言とりまとめ以降）」を用いて、4/10以降の各部会の状況について説明が行われた。

淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第1稿）に関する意見交換

各検討班リーダーから資料2「環境・利用部会の検討班の現状とりまとめ」を用いて、各検討班におけるこれまでの議論内容や今後の課題について報告が行われた。その後、主に各検討班間で相互に関連する問題や個々の具体策について、意見交換が行われた。

<主な意見>

自然環境について

- ・ 自然環境を回復する際の基準：過去の環境資源目録を参考にし、タイムスケジュールを検討 / 現在、わかっていること、わかっていないことを整理 / 1960年代を 等
- ・ 自然環境の回復のプロセス：保全地域を示した全体のゾーニングマップと保全区域での再生計画が必要 / 手を加えない地域（立ち入り禁止区域）を設定することが必要 等

水質について

- ・ 水質管理のあり方：河川管理者には水質問題に本気で取り組む姿勢が見られない / 人間だけではなく、様々な生物を含めた流域全体での水質マネジメントが必要 / 水質は水だけではなく、底質の砂とセットで / 環境教育等により住民自らが監視・モニタリングに関与を 等
- ・ 琵琶湖・淀川水質管理協議会（仮称）：水質について丸投げにしている感じがする / どのようにして具体化していくのか / 既存の組織等との関係を整理する必要がある 等

利用について

- ・ 利用のあり方：川の中だけではなく、堤防から50～100mの範囲での利用規制が必要。関係省庁との協定や住民参加による対応を検討すべき / 瀬田川の水面利用については国が率先してしっかりとした利用規制を / 泳げる川のためにはしっかりとした安全教育を 等
- ・ 河川利用の目標・基準：河川敷のグラウンド縮小に向けて、1960年代のグラウンド数を数値目標にしてはどうか。等

全体的な意見

- ・ 具体化に向けてのプロセス：整備計画後にモニタリングなどを行う委員会を実現化していくプロセスについて説明頂きたい。
- ・ 施策・事業の評価：定性的な評価も含めた費用対効果が重要
- ・ モニタリング：人の感覚・直観を取り入れることも重要 / 今の調査項目は非常に限定的。もっと多岐にわたり水を調査していくべき
- ・ 丹生ダムの検討項目：琵琶湖の急速な水位低下を軽減するための容量確保の検討ではダム湖の水質の悪化の影響が考慮されていない。また、琵琶湖の水位低下については洗堰操作規則の見直しを提言しており、ダムに頼れとは提言していない。再考が必要。

一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者からの発言はなかった。

このお知らせは委員の皆様にご覧いただき、会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。